

柳田國男・松岡家記念館開館40周年
松岡鼎生誕155年・柳田國男生誕140年記念展

松岡 鼎展

～柳田國男を導いた兄～

日本民俗学の父・柳田國男には
幕末・明治・大正・昭和の激動の時代を生き
1つの家族を守りぬいた 兄がいた

展示内容については、中面をみてね!

会 期

11/23(月・祝)まで

教
育
者

医
者
・
政
治
家



記 念 館 新 聞



福岡町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福岡町西田原
1038-12
電話：0790-22-1000



講演会 「松岡鼎～柳田國男を導いた兄～」

日時:10月3日(土) 13:30～15:00

場所:歴史民俗資料館 2階

講師:石井正己氏(柳田國男・松岡家記念館顧問/東京学芸大学教授)

ふるさと賞の テーマに迷ったら!

今年も柳田國男ふるさと賞への作品を募集します。
ふるさと賞は、福岡町の歴史、文化について、調べた作品を審査し、選ばれた作品におくっています。
対象者は、福岡町内の小中学生ですが、テーマはお決まりですか。
当館の記念展では「松岡鼎展」柳田國男を導いた兄、資料館の特別展では「戦後70年 福岡と戦争の記憶」を開催しています。
柳田國男の兄の松岡鼎と、戦時中の福岡のようすや人々のくらしなどを学べる展示です。
テーマに迷った方は、記念展と特別展を参考にしてください。

よみがえ みんなの記憶で蘇らせよう! 辻川界隈の街並み

◆ワークショップ参加者募集◆

福岡町では、神戸大学と連携し、柳田國男の生まれた時代の辻川界隈の街並みをジオラマ模型での再現に取り組んでいます。

下記のとおり、ワークショップを開催しますので、辻川界隈の街並みの記憶や思い出をお持ちの方は、ぜひお話を聞かせてください。

日 時:8月8日(土)～8月12日(水)
9:00～18:00

会 場:辻川区公民館
問い合わせ先:社会教育課 (☎22-0560)

故郷七十年を 読む



名作著書紹介

國男は、今から140年前に、現在の神崎郡福岡町西田原の辻川に誕生しました。
辻川は、生野街道と北条街道が交差する街道筋にあります。

「故郷七十年」には、辻川での思い出や体験談が多く記されています。
國男は「物売りが私たちに一つの世間を教えてくださいました村の風物詩」であったと述べています。また弟の静雄と輝夫(映丘)とともに、人力車の背後に描かれた武者絵を鑑賞するために、人力車の立場(中継所)に通ったことは「大切な辻川の文化史の一節」であったと記しています。



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

☆開館時間
9時～16時30分
(入館は16時まで)
☆休館日
月曜日、祝日の翌日
12月28日～1月4日
☆入館料
無 料



鈴ノ森神社の大玉垣
(左) 柳田國男 (右) 松岡鼎

「故郷七十年」のなかで國男は、鼎が「いつも播州のことを心にかけ、噂を絶えずしながら年取って、殆んど播州へは帰らずに終わってしまった」と記しています。
実際に鼎は、仕事で家を空けることができず、帰郷したのは、還暦となった大正9年(1920)に鈴ノ森神社へ大玉垣を奉納したときでした。

館日記

8月にはお盆がありますが、みなさんは帰省されますか。
國男の兄である鼎は、

医者となるために23歳で上京し、現在の茨城県北相馬郡利根町布川と千葉県我孫子市布佐で医院を開業し、医師・政治家として活躍しました。

松岡 かなえ 鼎展 ～柳田國男を導いた兄～

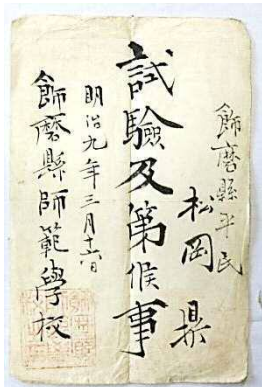
鼎は師範学校で学んで小学校教師になりました。しかし、翌年には教師を辞めて、ふたたび師範学校で学び、卒業後辻川の昌文小学校の校長となりました。

教師への学び～師範学生時代～

鼎は、教員を養成するための学校である師範学校に入学しました。

明治9年(1876)に飾磨県の教員試験に合格し、小学校の教員になりましたが、ふたたび師範学校で学ぶ道を選び、県内のトップ校である神戸師範学校(現神戸大学)へと進みました。

ここで鼎は、寄宿舎生活を送りながら学業に励み、明治11年(1878)、第1期生として神戸師範学校を卒業しました。そしてそのあと、辻川に戻り昌文小学校の校長となりました。



飾磨県教員試験合格証書
明治9年3月16日
(個人蔵)



飾磨県六等準訓導任命証
明治9年4月6日
(個人蔵)



神戸師範学校小学師範学科第二級卒業証書
明治11年2月28日
(個人蔵)

福崎の古墳の魅力 ②福崎町の大きな古墳Ⅱ

大塚古墳は、市川西岸の段丘上に位置する墳丘が直径約30mの円墳です。石室の構造は、片袖式の横穴式石室で、全長12・3m、高さ1・7mの大きさです。現在は、形がくずれやすいとされていますが、石室ののこりが良く、その構造を観察することができます。

また、須恵器(提瓶)(写真2)がみつかり、6世紀後半につくられた古墳だと考えられています。

大塚古墳の特徴として、市川流域でも古墳の規模が大きいこと、市川の流路を見下ろす段丘上に単独で立地することがあげられます。このことは、山崎から福田地域にかけて展開していた集落を代表するような有力者が葬られていることを示していると考えられています。



写真1 大塚古墳石室内
(開口部に向かって)



写真2 大塚古墳出土須恵器(提瓶)

おおつか
大塚古墳(山崎)町指定文化財